

この高等研学術情報No. 6は、以下の資料の一部を抜粋したものです。

国際国際高等研究所

第61回理事会・評議員会 (2008年3月12日)

高等研事業報告

所長
金森順次郎

国際高等研究所の主要研究事業
人文社会自然技術に跨る約20の研究プロジェクト
フェロー招聘による個人研究 研究者養成



〔上級研究員〕2名

新庄 輝也 京都大学名誉教授 志水 隆一 大阪大学名誉教授

〔フェロー〕9名

William Shi-Yuan WANG 香港市大学工学部教授 (言語学)

小林 誠 日本学術振興会理事 高エネルギー加速器研究機構名誉教授 (素粒子理論)

合志 陽一 筑波大学監事 東京大学名誉教授 (分析化学)

Hubert Ebert Ludwig-Maximilians(ミュンヘン)大学教授 (理論物性物理学)

高野 幹夫 京都大学特定拠点教授・名誉教授 (固体化学)

中井 浩二 高エネルギー物理学研究所名誉教授 (原子核・加速器・高エネルギー物理)

阿部 博之 科学技術振興機構顧問・東北大学名誉教授 (固体力学)

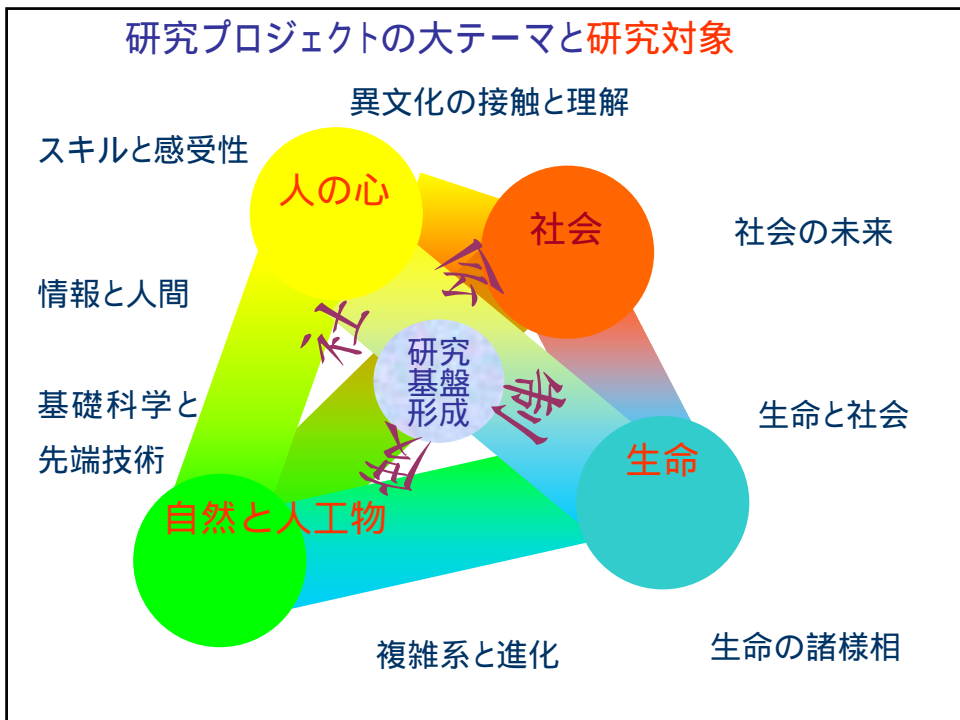
堀内 昶 京都大学名誉教授 (原子核理論)

松岡 博 帝塚山大学長・大阪大学名誉教授 (国際私法)

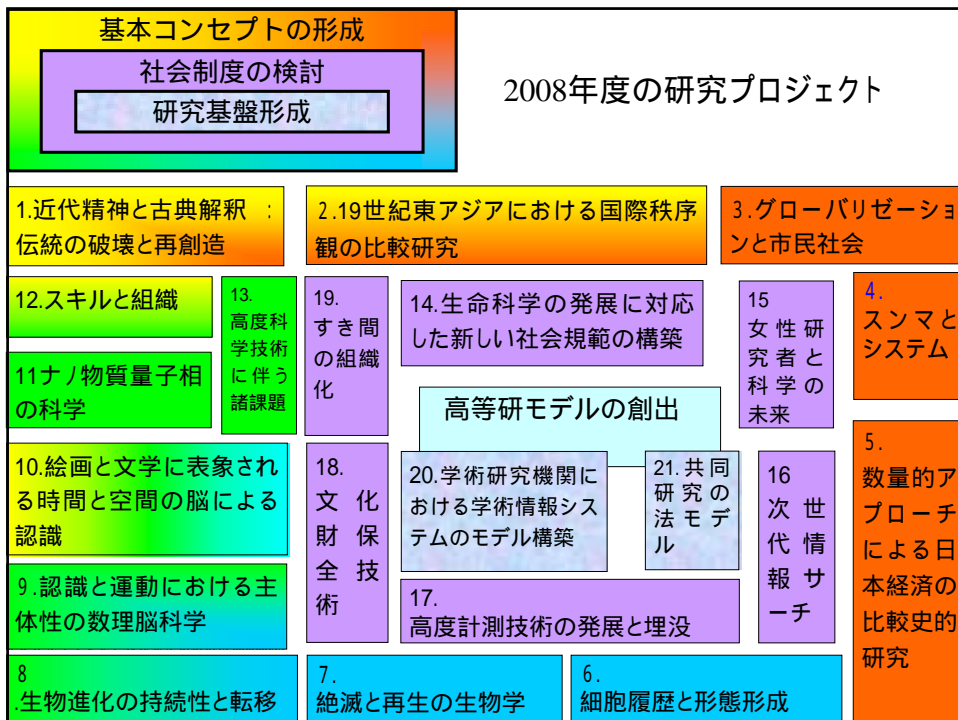
フェローは、高等研究所に滞在して著書の執筆をされる場合もある。下の写真はそのことが記載された最近出版の著書を示す。なお、吉田善章氏はプロジェクト代表者として滞在された。




研究プロジェクトの大テーマと研究対象



From P.W.Anderson "Theoretical Paradigms for the Sciences of Complexity"
 Chapter 9 of Nishina Memorial Lectures, page 230 edit. Nishina Foundation, Springer, 2008
 (One of the two main directions of action involved in the charter of the Santa Fe Inst.)
 We believe that the growth points of science lie primarily in the gaps between the sciences, so that we believe in fostering cross-disciplinary research in growth areas which are not well served by the conventional structure of the universities or the funding agencies. I use the word cross-disciplinary to emphasize that we are not trying to create new disciplines(like materials science or biomolecular engineering), which often rigidify into new , even narrower intellectual straightjackets, but that we approach problems by cross-coupling between scientists well grounded in their disciplines but thinking about problems outside or between them – as has often been fertile in materials science, with the coupling of good physicists, good chemists and good engineers.



2007年度の日本・ハンガリー学術交流セミナー
 言語・進化・脳科学国際セミナー等に続いて
 2008年度も各種フォーラム、セミナーを企画
 「言語と脳に関する国際セミナー」(Seminar on Language and Brain)王 士元 フェロー・香港市大教授
 「多階層連結コンピューティング」
 三間 園興 阪大レーザーエネルギー学研究センター
 「未来社会の課題」(ドイツBaden-Württemberg州
 の社団ドイツ・東アジア学術フォーラムとの共催)
 高等研フォーラム「民法の未来像」
 特定領域、学術創成等のプロジェクトとの共同研究
 Computational Materials Design ワークショップ(年2回:過去12回)

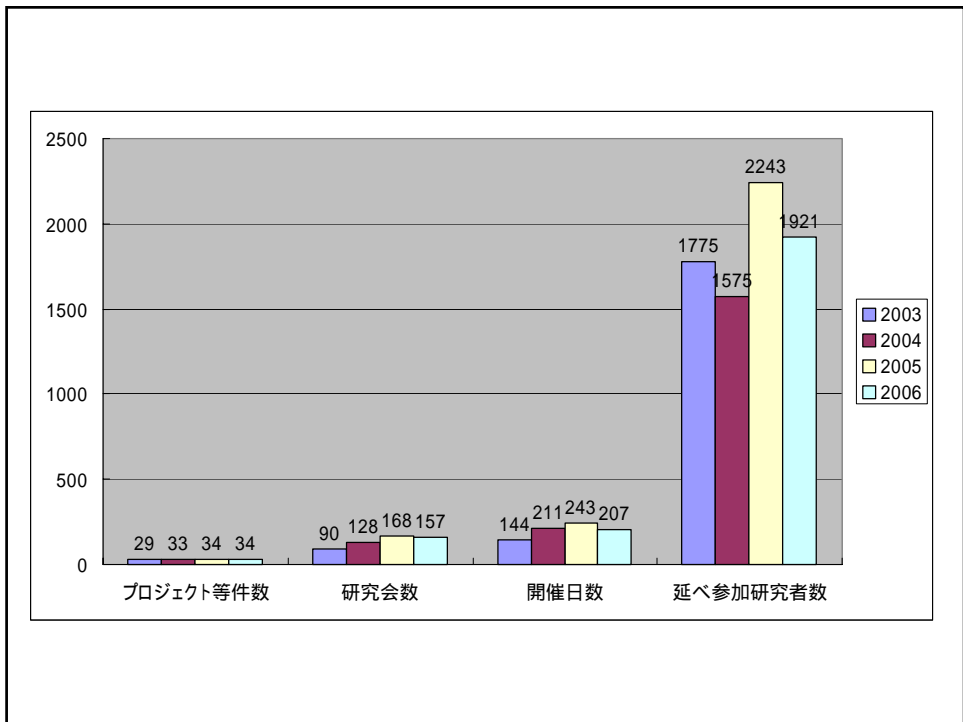


京都銀行協賛事業
高等研公開講演会
江戸時代の新しい見方
 ～近代の動向・近年の数量経済史研究の成果から～
 2008年2月23日(土)
 14:00～16:00(開場:13:30)
 宮本 文郎
 (国際高等研究所フェロー・関西学院大学専門職大学院教授・大阪大学名誉教授)

国際高等研究所 レクチャーホール
 (対象:高校生以上・入場 無料 定員:150名)

〒619-0221 京都府京都市伏見区南丁町2番地 (新・国際高等研究所) 宮本 文郎 氏
 電話: 0774-73-4001 FAX: 0774-73-4002 E-mail: iah@i23.shnu.ac.jp (日・月・英語)
 国際高等研究所

5月31日(土)
 「洛中洛外図」について
 (仮), 山本 英男 京都国立博物館保全修理指導室長
 10月25日(土)演題未定,
 西川 伸一 理化学研究所幹細胞研究グループグループディレクター
 09年2月28日(土)
 演題未定, 石澤 良昭
 上智大学学長



コア・エグゼクティブと幹部公務員制度
研究
研究代表者: 村松 岐夫

動・植物における
分化全能性
研究代表者: 原田 宏

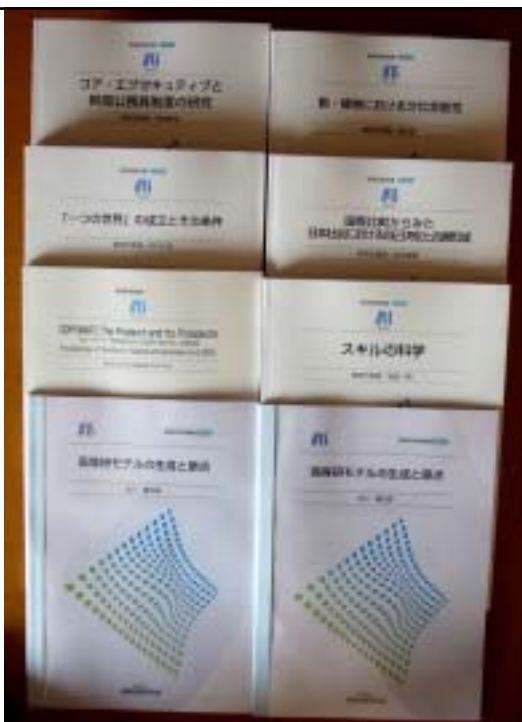
「一つの世界」の成立と
その条件
研究代表者: 中川 久定

国際比較からみた日本社会における自
己決定と合意形成
研究代表者: 田中 成明

スキルの科学
研究代表者: 岩田 一明

途上国における日本人長期政策ア
ドバイ
ザ体験記
研究代表者: 橋本日出男

**「高等研学術情報」の
提供開始**



三当事者の合意が創るITと著作権の共生システム

コピーマーケットの理念
人の交流の場づくり
コンテンツの流通市場
知的創作物の発掘の場
学術情報の参画利用

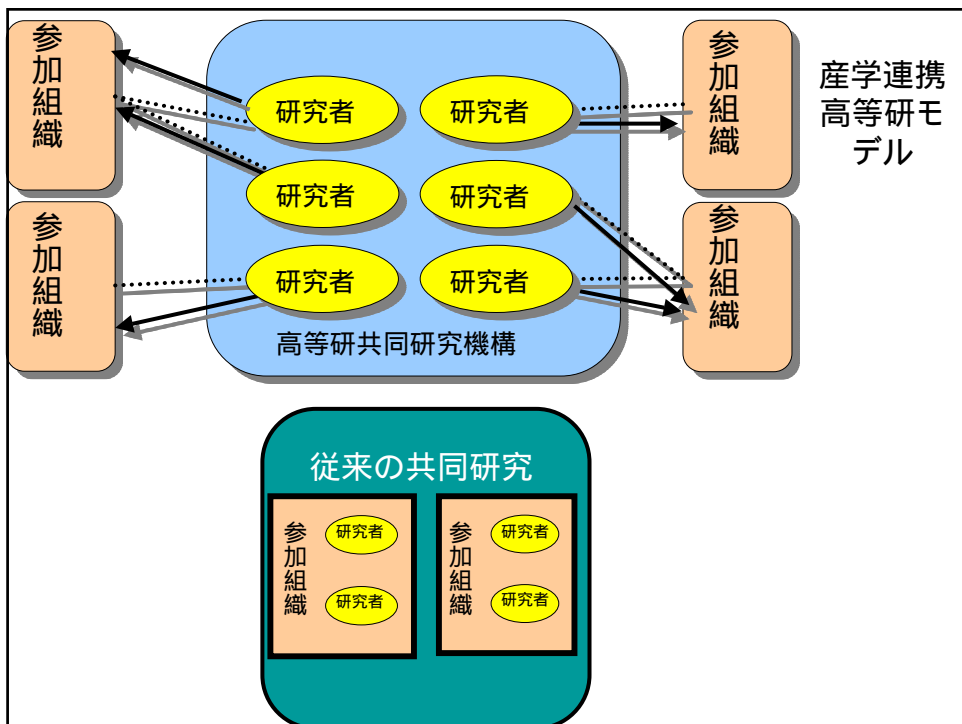
**共生システムを創る
三コピーマーケット契約**
主宰者と権利者間
主宰者と利用者間
権利者と利用者間



- 高等研学術文化情報
- 産学連携
- JALO日本法
- 民法モデル
- 京大胎児コンテンツ
- 阪大ソフトCMD資産
- 九大朝顔コピーマーケット
- 井口化学物質
- 濱電子顕微鏡写真
- ウェブの書齋DNP



- 能文様コピーマーケット
- 行政情報
- 遺伝資源コピーマーケット
- 教育・学習



研究共同体モデルへの統合 北川副所長

研究共同体モデル

・いくつかの高等研モデルが相互に関わり合うことも多い。そこで研究関連の高等研モデルを「部分システム」とする研究共同体の法モデルを構想することができる。

- ・第1層 情報基盤となるコピーマート
- ・第2層 特定分野毎の高等研モデルとそのインタフェースの選定

学術情報システム・知的財産モデル・産学連携協定・

- ・第3層 大学・研究機関・企業等の組織における研究共同体モデル

研究管理・利益相反・知的財産管理・取引管理 京大胎児
 DVD、CMD Copymart・研究者の研究規範管理システム